

大阪・日置荘遺跡

- 1 所在地 大阪府堺市日置荘原寺町
- 2 調査期間 一九八九年(平一)一〇月～十二月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会・大阪文化財センター
- 4 調査担当者 入江正則
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 六～一七世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東南部)

日置荘遺跡は大阪府の南東部に位置し、旧南河内郡にある。堺市および美原町にまたがる総延長3kmの広大な遺跡であり、美原町区域では日置荘遺跡と呼ぶが、ここでは両遺跡をあわせて日置荘遺跡と称する。

遺跡は標高四〇～五〇mのきわめてなだらかに南から北へ降る中段丘上にある。遺跡の東側には南から北へ西除川が流れ、西側に

は和泉国と河内国を分ける分水嶺である西高野街道が通る。中世の城郭も多く、大饗城、野田城、池尻城、陶器城等が知られている。また周囲の丹上遺跡、真福寺遺跡、太井遺跡等からも、鉾、トリ、鋳型、ふいごの羽口等の鋳物師が使用した遺物が数多く発見されており、中世鋳物師の拠点でもあった。

日置荘遺跡の集落遺構は掘立柱建物数棟、井戸等が一群となり、それぞれの一群は溝で区画されており、これらの溝の区画が相接して密集している。区画は判明するだけで東西約一三〇m、南北約四〇mのもの、四〇m×三〇m、三〇m×二五m等さまざまなものがある。これらの遺構から、炉跡や熔解炉の基部等とともに、瓦器碗・瓦質鉢・瓦質羽釜・瓦質甕・瓦質花瓶等が発見されている。

日置荘遺跡は旧石器時代の石器片かと思われる遺物が最も古く、次の縄文・弥生時代の遺物はほとんどない。古墳時代前・中期の遺物もないが、古墳時代後期(六世紀前半)には掘立柱建物等が西除川沿いに出現し、開発が始まったと考えられる。ついで六世紀後半には遺跡内の二、三箇所において須恵器窯が築かれ、須恵器が大量に焼かれる。また埴輪窯も構築され、埴輪も作られる。しかしこれらの窯業生産は絶えてしまい、奈良・平安時代には続かない。しかし掘立柱建物は、場所を違えて七世紀から八世紀代に集落を作っている。この集落は一〇・一一世紀頃まで続くようである。この後に場所を違えて、一二世紀頃から一六・七世紀頃まで集落が続く。

(1) 「迷□□□□□□□□□□」

本来□□□ □□□□□

$$273 \times (69) \times 4 \quad 061$$

(2) 「悟故十□□」

273×(51)×4 061

(3) 「迷□□」

272×(64)×4 061

(1)は三点の折敷の中で最も濃く文字の残っていたものであるが、右に示した程度しか解読できない。そして(1)(2)(3)の墨書を比較すると、三点とも同じ文字があり、同一文を示すものと推察される。この三墨書を同一文として重ねあわせると、左のごとく整理される。

「迷□三□□ 悟故十方空」

方空

本来□□□ □□□□□

1001

ところで中世の地鎮や呪咀に用いられた句として次のものがある。

迷故三界城 悟故十方空 本来無東西 何處有南北

右の句が三つの折敷に書かれていたとした場合、非常に整合性が高く違和感も少く、そのように考えてほぼ誤りないと思われる。

この句は修験道で、主に地鎮祭、呪咀返し、金神様を除く法等に用いられる。四つの句で境界をもうけて、中央に対象となる物をおき、鬼・邪気・悪霊・呪い等から守り追い返す働きがある。これを四方に貼るか、立てるかする事も考えられ、四枚一組とも考えられる。折敷の裏板としても、残り一枚で正方形になり、都合が良い。

このような目的で書かれた折敷が、なぜ井戸に埋もれるに至ったかは不明である。

同じ呪言を記したものは、岡山県長船町の助三畑遺跡、静岡県の小川城遺跡、広島県福山市の草戸千軒町遺跡でも発見されている。

なお、三点の折敷の釈文の作成、意味と資料については、奈良太学水野正好氏の御教示を得た。

9
関係文献

大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター『日置荘遺跡その一』
（一九八八年）

同『日置莊遺跡 その二』（一九八八年）

同『日置莊遺跡 その三』（一九八八年）

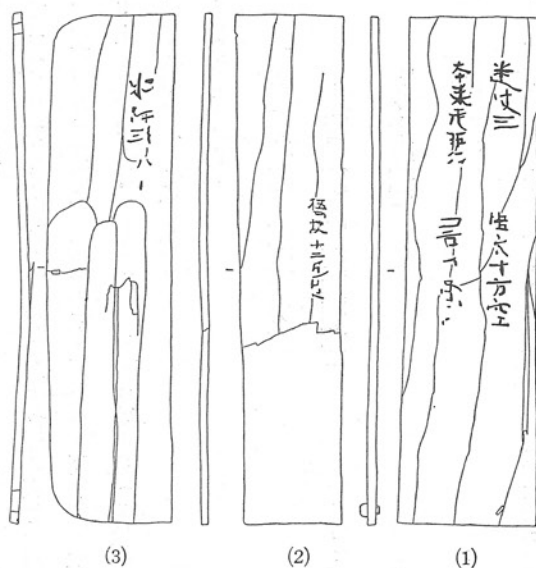
同『日置莊遺跡 その四』（一九八八年）

同『日置荘遺跡 その五』(一九八九年)

同『太井遺跡 その四ほか日置荘遺跡 その一―二』(一九九〇年)

同『日置荘遺跡 その二―六』未刊

(入江正則)



大阪・上町遺跡

うえまち

1 所在地 大阪府泉佐野市上町三丁目

2 調査期間 一九八九年(平1)九月～一九九〇年三月

3 発掘機関 財大阪府埋蔵文化財協会

4 調査担当者 重金 誠

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 一四世紀末～一五世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

上町遺跡は、泉佐野市街のほぼ中心部、海岸線からは直線距離で約一〇〇〇mに位置する。付近一帯は、天福二年(二三四)に九条

家によって立荘された和泉国日根荘として知られるところである。

本遺跡は、一九八七年度に泉佐野市教育委員会が実施した、南海電鉄泉佐野駅駅上地区再開発事業に先立つ確認調査によって、中世の遺物や掘立柱の柱列等が



(岸和田)